

2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

駅家中学校区	校番 21	福山市立駅家中学校
最終更新日		2025年(令和7年) 2月1日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>各学校が特色ある教育活動を推進している。活動のねらいや内容も明確となっている。今後も学校と地域がより連携し、地域人材の活用、地域貢献等、地域の教育力を活かしながら児童生徒の主体的な探究学習を推進してほしい。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○全国学力調査では、全国平均を下回っている。低学力の子どもが多く、学力定着に課題がある。</p> <p>○児童生徒は地域への愛着があり、地域の方々との交流や地域貢献活動に意欲的に取り組むことができる。</p>	<p>育成する力 21世紀「スキル&倫理観」</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p><中学校> 思考力 コミュニケーション力・協調性 意志決定力・志</p> <p><小学校> 課題発見・解決力 コミュニケーション力 挑戦する力</p> <p>○日常生活の中に課題を見つけ出し、自分の知識を総動員して答えを導き出す。</p> <p>○他者との関係を協調的に築きながら、自分の考えを発信し、仲間と課題解決する。</p> <p>○自分の人生を切り開き豊かな未来を創ろうと見通しや展望を持ち自己決定する。</p> <p>○「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」を研究テーマとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の分析から課題をつかみ具体的な手立てを研究し、授業改善を進める。 ・自分の考えや思いを持たせ、相互交流の中で考えや思いを深める、全員参加の授業づくりを目指す。
---	--	---	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>社会の変化に対応し、自らの進路を切り開き、豊かな人生を送ろうとする意欲の醸成</p>	<p>育成する力 21世紀「スキル&倫理観」</p>	<p>思考力</p> <p>低</p> <p>○身近な問題に対して疑問を持ち、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力</p>	<p>コミュニケーション力・協調性</p> <p>○自分の役割に責任を持つ力 ○自分の考えを伝える力</p>	<p>意志決定力・志</p> <p>○学級・学年や家族の一員であることを自覚し、主体的に学ぶ力</p>
<p>学校教育目標</p> <p>「自律」「寛容」「志」 ～自ら考え行動し、仲間と共に、未来を切り開く～</p>		<p>中</p> <p>○地域や社会の問題に対して、持っている知識を関連付けて考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力</p>	<p>○自分の役割や言動に責任を持ち、助け合ったりする力 ○自分の考えを伝え、相手の考えを比較しながら聞く力</p>	<p>○学校や地域の一員であることを自覚し、主体的に学んだり難しいことにもチャレンジしたりする力</p>
<p>現状</p> <p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおむね落ち着いた学校生活を送っているが一部の生徒が落ち着きがなく授業に集中できていない。 ・将来の夢や目標を持っている生徒が70%である。 ・自分の意見や思いをはっきり表現できる生徒が70%である。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかるできる」85%、「授業で考えることはおもしろい」81%、「授業で解決しようとする課題について、なでだろう、やってみたいと思える生徒」74%と主体性を持たせた展開になっていない。 ・1分間スピーチによって、「自分の気持ちや意見を伝えている」72%、「友達の意見や気持ちを理解している」71% スピーチをする意義や方法等の指導内容を検討することが必要である。 ・「毎日楽しく学校に通っている」87%、「毎日安心して学校に通っている」91% 学校が安全で充実した生活の場となるようにしていく必要がある。 		<p>めざす子ども像</p> <p>1年</p> <p>○目と耳と心で聴くことができる ○言語・数・情報を用いて根拠を持って表現できる</p> <p>2年</p> <p>○一人一人が自分の考えを持って他者と対話することができる</p> <p>3年</p> <p>○日常生活の中に課題を見つけ出し自分の知識を総動員して答えを導き出す</p>	<p>○自分の役割や言動に責任を持ち、共感的に聴きながらアイデアや知識を共有し深める力</p> <p>○目と耳と心で聴くことができる ○言語・数・情報を用いて根拠を持って表現できる</p> <p>○他者と話し合い考えを比較し統合しながらより良い考えを創造できる</p> <p>○他者との関係を協調的に築きながら自分の考えを発信し仲間と課題解決する</p>	<p>○地域・社会の一員であることを自覚し、持続可能な社会に向け、主体的に学んだり困難に立ち向かったりする力</p> <p>○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている</p> <p>○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている</p> <p>○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている</p>
	<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」 ～仲間と見通しをもって協働する学びの時間を創造する～</p> <p>内容等</p> <p>興味・関心を引き出す単元課題と、ねらい・意図を明確にした協働学習の場の設定 自己調整力を育む単元構成の工夫</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>(1) 対話のある授業(教材との対話・自分との対話・他者との対話) (2) 教科の面白さに迫る授業(生徒が問いを考える、生徒にとって取り組みたい題材がある) (3) 人間関係が深まる授業</p>		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期・中期経営目標の達成状況	達成評価	総合評価	改善方策		
2	主体的で対話的な学びを通じた、学力の定着	★	継続	主体的に学びに向かい、粘り強く学び続ける授業づくり	・教材研究に視点を置いた研究や研修を推進することで授業づくりの充実に努める。 ・考える必然性のある課題を提示し、全教職員が主体的・対話的で深い学びのある授業を展開する。	・「授業内容はよくわかる」90%以上 ・各種調査の市平均以上 全国学力学習状況調査、学力の伸びを把握する調査、実力テスト	1年 87% 2年 80% 3年 76% 全体 81%▼ <達成率90%> ・学力分析の結果、公式や文脈で言葉を正しく理解し、活用することに課題が見られる。	3	2	・結果分析取組シートを作成し、単元ごとに小テストを実施する。 ・単元全体を見通した授業計画を立て、その中に「比較」という手法を活用し、理解につなげる。各単元に1回以上設定する。	1年 85% 2年 81% 3年 82% 全体 82%▼ <達成率90%> ・一部の単元で小テストを実施できなかった。・単元ごとに「比較」という手法を1回以上設定できたのは、教職員58%であった。	3	2	3	生徒の学力方略について、努力調整方略に課題があることから、各教科や総合的な学習で、探究活動(探究過程を意識した授業づくり)を行っていく。
2	生徒がいきいきと学べる学校づくり		継続	一人ひとりの承認欲求が満たされる集団づくりの推進	・全教職員が児童生徒への肯定的評価を積極的に行う ・児童会、生徒会を中心として生徒が企画・運営する活動を増やしていく。 ・不登校生徒への対応の充実	・「学級内では、お互いの考えや意見が認められていると思う」90%以上 ・「先生は、自分のことを見てくれている」95%以上 ・不登校生徒出現率が全国平均以下(諸課題集計表)	・全体84% ・3学年87% 不登校出現率3%(9月末現在) 日常生活や授業・行事など生徒の活動に対して、個人面談を利用して肯定的評価を行っている。	3	2	・個人面談を続け、アセスや生徒アンケートをもとに、細やかな対応をする。 ・積極的に家庭訪問を行い、保護者や本人とのより強いつながりを構築する。	1年 79% 2年 91% 3年 87% 全体 86% 不登校出現率7%(1月末) 早期発見・早期対応を目指し教育相談委員会を開き、それに合わせた家庭訪問を実施した。	3	2	3	次年度も教育相談委員会での交流やアンケートの分析を元に、より個に応じた対応をしていく。
2	保護者・地域に信頼される学校づくり		継続	地域・保護者の満足度を高める	・家庭との連携など迅速で対等な対応を行う。 ・HPを用いた情報発信	・「安心して通っている」生徒90% ・「安心して通わせている」保護者90%	1年生87% 保84% 2年生89% 保88% 3年生77% 保76% 全体84%▼ 83%▼ 達成率93% 92% HPを迅速に更新し、保護者との連絡を密に行っている。	3	2	・子どもの課題を家庭と共有し支え合いながら、より良い生き方につなげる。 ・学校での取組が分かる情報を今以上にHPに更新する。	1年生81% 保91% 2年生82% 保85% 3年生82% 保80% 全体82%▼ 85%▼ 達成率91% 94% HPやメール配信で学校の情報を積極的に公開している。	3	2	3	HPだけではなく、生徒の成果物なども参観日などの機会に公開していく。
2	教職員が元気で、生徒に向き合える学校づくり		継続	業務改善によりやりがい達成感を高める。	・「業務の見える化」を工夫し計画的に効率よく業務に取り組めるようにする。 ・教材研究・生徒交流により、教職員としてのやりがいや達成感を高める。	・「仕事にやりがいを感じている」80%以上	87.5%△ <達成率109%> 会議の日程固定・早めのスケジュール確認共有で先を見越し、生徒と向き合う時間を確保した。	3	3	・会議内容を事前に情報共有することで会議時間の短縮を図り、授業準備・生徒交流の時間を生み出す。教職員間での情報交流の場を月に1回設定する。	95.0%△(19/20人) <達成率119%> 会議や行事等の綿密なスケジュール調整・共有により生徒交流・教材研究の時間を確保した。教職員間での情報交流の場：駅中Meetingを月1回設定した。	3	3	3	次年度は放課後の時間帯による会議の削減・企画会メンバーの再構成を行い、教職員・生徒共により良い環境づくりを目指す。また、教職員間の情報交流会も月に1回の開催を行う。

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。